



コレクションルームの作品を  
みんなで研究しよう！

E-082

伊東翠壺 (いとう すいこ)  
明治27年—昭和55年  
方円菱花文花瓶  
(ほうえんりょうかもんかびん)  
昭和9年  
磁器 呉須 象嵌  
高43.0、胴径17.2cm  
寄—1978

K-082

ITO Suiko  
1892-1980  
*Round-Square Rhombic-Flower  
Patterned Porcelain Vase*  
1934  
Porcelain with blue glaze and  
O. D. 43.0, B. D. 17.2cm  
g-1978

- かんせい だんわしつ と  
・完成したシートを談話室の「ほんまかファイル」に綴じてください。  
かつどう きろく けいさい ばあい  
・このシートは、ラーニング・プログラムの活動記録に掲載する場合があります。

けんきゅう  
**研究にチャレンジしよう!**

くうそう そうぞう よ かんが か のこ  
空想でも想像でも良いので、みなさまの考えを書き残してください。

せいがい  
(正解はひとつではありません)

ちい こ つ かた こ かんが か のこ  
小さなお子さま連れの方は、お子さまの考えも書き残してください。

さくひん み しつもん こた  
**作品を見て質問に答えよう!**

さくひんめい ほうえん しかく まる  
● 作品名にある「方円」とは、四角(方)と丸(円)のことで、  
りょうかもん ひしかた はなもよう  
「菱花文」は菱形の花模様のことです。

1. この作品の、一番の見どころだと思うことを書いてください。  
なぜそう思いますか。

2. あなたが、作品名をつけるとしたら何ですか。  
なぜそう思いますか。

3. この作品を飾るとしたら、どんな場所にどんなふうに飾りますか。  
なぜそう思いますか。

4. その他にも思ったことや、疑問があれば書いてください。

5. あなたもなにか質問を思いついたら書いてください。

さくひん  
● **作品について**

作者の伊東翠壺は、明治27(1894)年に、京都府木津川市で生まれます。旧姓は村井、  
ほんみょう まいほる にだい いとう とうざん とうけい まな きょうとし とうじき しけんしやう ふぞく でんしゅうしよ  
本名は義治です。二代伊東陶山のもとで陶芸を学び、京都市陶磁器試験場付属伝習所  
にゅうしよ にだい とうざん むごよし ご どころつ かつやく だい かい ていてん  
に入所します。二代陶山の婿養子になるが、その後独立して活躍し、第10回帝展に  
はつにゅうせん でんとう おも せんぜん とうけい あた どうこう  
初入選します。伝統を重んじつつ、戦前にはアール・デコなどのデザインの新しい動向  
をしき せんご ゆうやく かいはつ ちゅうりよく ほんさく えんとうけい かびん ずんどうがた  
を意識し、戦後は釉薬の開発に注力します。本作は円筒形の花瓶で寸胴型といわれる  
どうき かたち ほんほん みずいろ こくせん ひしがた ちゅうしやうか にしゆ かもん ちやうこく  
銅器の形をとっており、四本の水色の刻線と、菱形に抽象化された二種の花紋の彫刻  
とくちやうてき ちやくせん いしき うつわ かたち もんよう そうほう むす さくしや いと  
が特徴的です。直線を意識して器の形と文様の双方を結びつけようとした作者の意図  
かん  
が感じられます。